

第78回企画展

フェノロサの愛した寺
法明院
—三井寺北院の名刹—

平成31年3月2日(土)～4月14日(日)



アーネスト・F・フェノロサ肖像写真 明治時代 園城寺（法明院）蔵

明治にアメリカから来日したお雇い外国人のアーネスト・F・フェノロサは、日本の美術に大きな関心を抱いていました。しかし、文明開化の最中、それらが打ち捨てられようとしていることに心を痛め、日本美術の宣揚に力を注ぎました。彼が愛し、終焉の地として願った場所が、今回の展覧会の舞台、法明院です。

フェノロサの愛した寺 法明院 —三井寺北院の名刹—

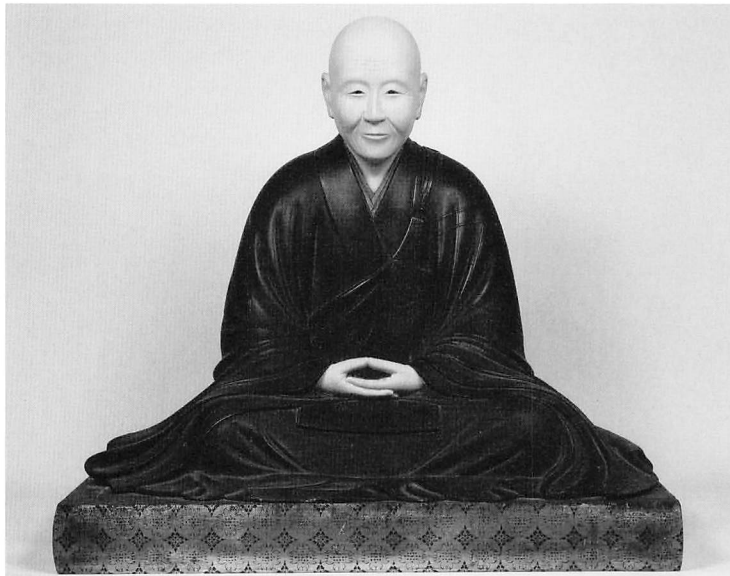
会期：平成31年3月2日（土）～4月14日（日）

【休館日：月曜日、3月22日】

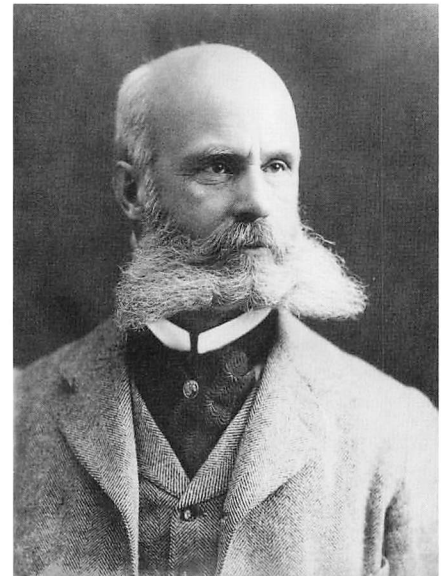
明治時代、アメリカから来日したアーネスト・F・フェノロサは、日本美術の^{せんよう}宣揚に努めたことで知られています。彼が愛し、そして遠いイギリスの地で亡くなる際に帰りたいと願った場所が、園城寺（三井寺）の北端に位置する法明院です。^{なから やま}長等山の中腹に位置し、享保8年（1723）、^{ぎ ずいしやうけい}義瑞性慶によって開かれた同寺は、「園城の律院」と称され、開山以降数多くの学僧を輩出し、天台教学の復興に努めた学問の寺として栄えました。その堂内には、近世文人画の巨匠である^{いけのたい が}池大雅や、^{まる やま おう きょ}円山派の始祖である^{つる さわ}円山応挙、^{たん さく}鶴沢派の3代目である鶴沢探索らによる障壁画が数多く残されています。

明治時代に入ると、フェノロサや、彼と共に来日し、日本美術に傾倒したウィリアム・S・ビゲローは、当時の住職であった^{じゆんどう さくら い けい とく ゆうしやうけい えん なおほやしかりやう}順道（櫻井）敬徳や融照敬円（直林寛良）らと親交を深めました。フェノロサ、ビゲローの両氏は、没後、彼等の希望により法明院に葬られ、今もこの地に眠っています。

本展では、フェノロサ、ビゲローの愛した法明院にゆかりのある絵画や彫刻、古文書、聖教などの宝物を展示し、同寺の歴史と文化を紹介します。



義瑞性慶像 1 軀 江戸時代 崇福寺蔵



ウィリアム・S・ビゲロー肖像写真
明治時代 園城寺（法明院）蔵

企画展「フェノロサの愛した寺 法明院 —三井寺北院の名刹—」 インフォメーション

会 場：歴史博物館企画展示室 A

観 覧 料：一般 600 円（480 円） 高大生 300 円（240 円） 小中生 200 円（160 円）

（ ）内は前売り、15 名以上の団体、大津市内在住の 65 歳以上の方、
大津市内在住の障がい者、市内在住の介護保険の要介護者・要支援者の方の割引料金。

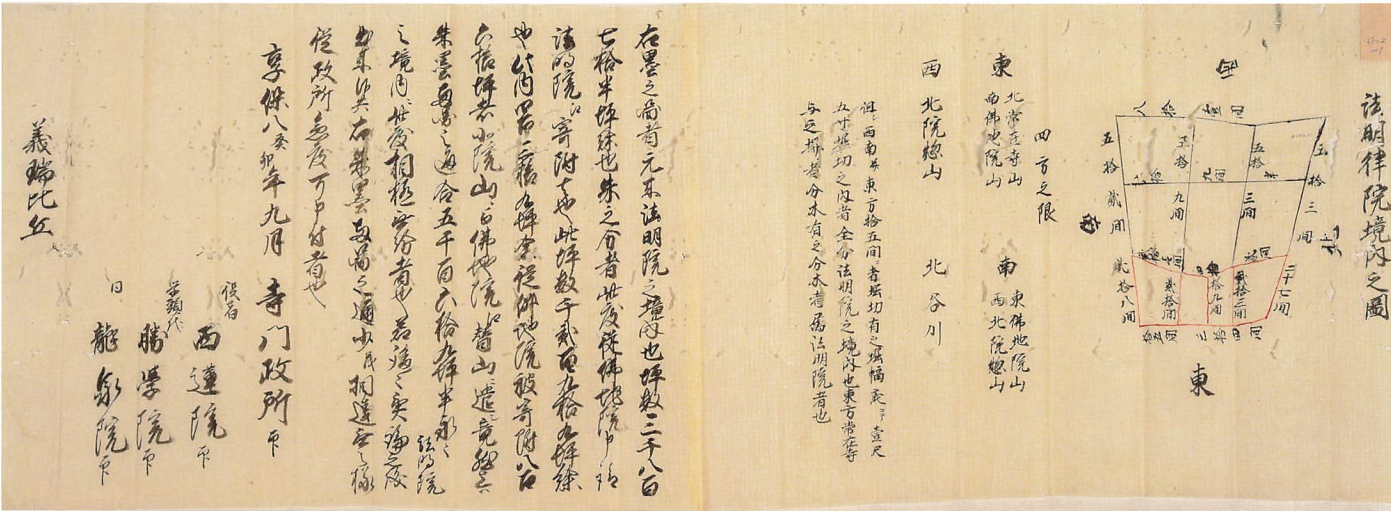
主 催：大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・京都新聞

後 援：NHK 大津放送局・BBC びわ湖放送・エフエム滋賀

特別協力：天台寺門宗・園城寺

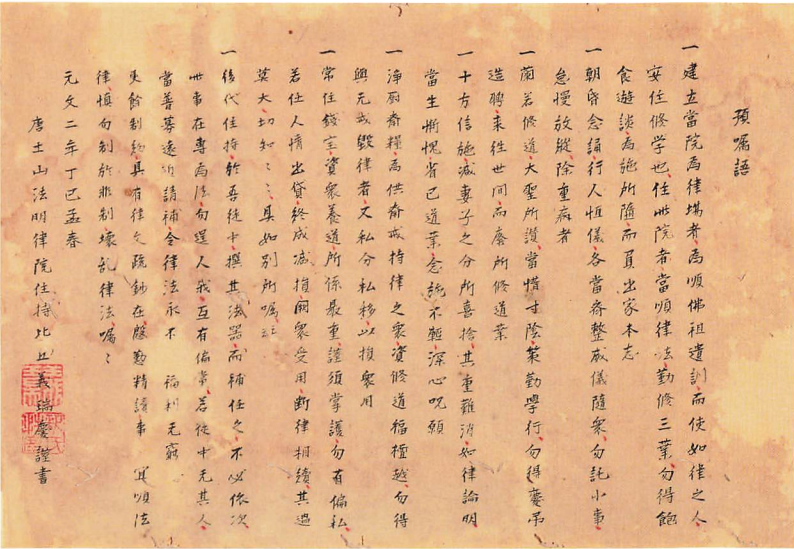
協 力：日本フェノロサ学会・数珠巡礼会・びわ湖 108 霊場会

企画展「フェノロサの愛した寺 法明院 ―三井寺北院の名刹―」の主な展示作品



法明院境内之図 1通 享保8年（1723）園城寺蔵

法明院は、江戸時代初めまでは別の場所にあり、それを義瑞性慶のために移転させて中興しました。本図は移転先の法明院境内の土地を示したものです。



義瑞大和尚遺誡 1巻 元文2年（1737）
園城寺（法明院）蔵

義瑞性慶が亡くなる前に、自分の弟子たちに対して説いた戒めを箇条書きにしています。僧として守るべき規範からお寺の運営まで7か条が直筆の文章でまとめられています。



大津市指定文化財 幽居図 池大雅筆 襖8面 明和2年（1765）頃 園城寺（法明院）蔵

日本の文人画の巨匠である池大雅（1723 — 1776）による襖絵です。水墨の技法を駆使して樹木や岩肌が表現され、情緒ある作品に仕上がっています。

大津の仏教文化18 えい ざん ぶん こ 叡山文庫の仏像史料

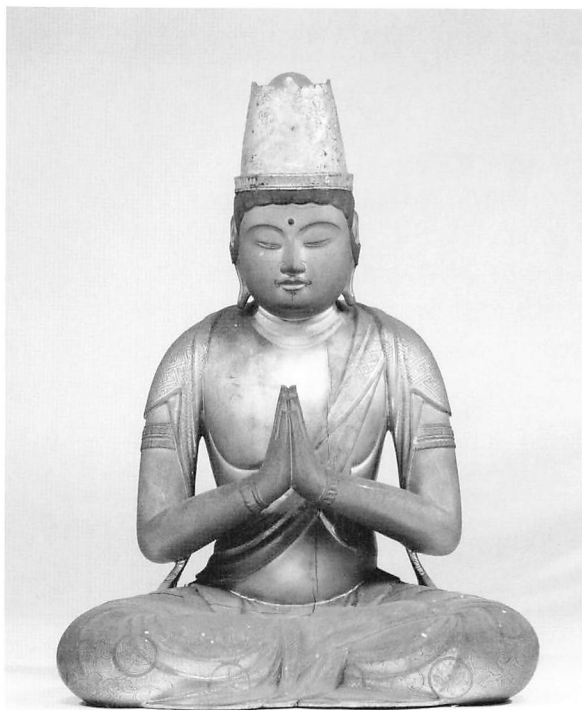
会期：平成31年1月22日（火）～3月3日（日）

【休館日：月曜日（祝日を除く）、2月12日】

『古事記』（712年）に「大山咋神、亦名、山末之大主神、此神者、坐近淡海國之日枝山」とあり、7～8世紀には大山咋神が鎮座することで知られた、近江国の日枝山（比叡山）。またの名を「山末之大主神（山の上にいらつしゃる神）」と呼ばれるほど、比叡山は古代から神々しい山として崇められ、ここに日吉社（現、日吉大社）が創建されました。さらに坂本にゆかりのある伝教大師最澄（767～822）が、延暦7年（788年）に比叡山に籠り、一乗止観院を建立。比叡山上の山寺であるため、比叡山寺と呼ばれました。さらに延暦13年（794）に桓武天皇によって平安遷都がなされ、その北東の鬼門にあたる比叡山は平安京を護る鎮護国家の道場として崇拝されました。そして弘仁14年（823）にはその元号をとって「延暦寺」と呼ばれるようになります。

以来、我が国を代表する大寺院として興隆を極めた比叡山延暦寺には、数多くの仏像が造立され、安置されていました。長い歴史の間にその多くは失われましたが、それでもなお山内には多くの仏像や神像が伝存しています。それとあわせて、比叡山延暦寺の宝庫、叡山文庫には、延暦寺の長い歴史に関わる様々な史料や聖教が膨大に伝わっています。

本展では、比叡山延暦寺や日吉社の仏像や神像に関係する資料を展示し、比叡山の歴史の一端を紹介します。



普賢菩薩坐像 平安時代 松禪院（横川飯室谷）蔵



叡山文庫外観

おお つ ひやく そう せん かん けい し りょう

「大津百艘船関係資料」が国の重要文化財に新指定されました

このたび、当館寄託資料の「大津百艘船関係資料」が、新たに国の重要文化財（歴史資料）として指定されました。これら資料は、大津百艘船という船持仲間に伝来した、文書・記録類、高札類、器物類などおよそ 1200 点余りから構成される歴史資料です。

この「大津百艘船」とは、天正 14～15 年（1586～87）、豊臣秀吉が、坂本にあった城を大津に移して、北陸・東国からの物資輸送の拠点とし、さらに大津城主の公用を務めさせるために創設した船持仲間のことです。以後、大津百艘船は、大津から運び出される物資と人の輸送の独占的特権が与えられたことにより、琵琶湖水運の中心的役割を担うことになります。また、大津百艘船は、琵琶湖諸浦との抗争を繰り返して展開したことから、多くの争論文書や記録が残されてきました。今回の指定の説明には「琵琶湖水運の歴史を知る上において基礎資料であり、交通史、経済史等研究上に価値が高い」とされています。

もちろん、これまで「大津百艘船関係資料」が未知の資料群だったわけではありません。『大津市志』（明治 44 年）、『大津市史』（昭和 17 年）、『新修大津市史』（昭和 53～62 年）をはじめ、県内の自治体史などの編纂、また江戸時代の琵琶湖水運史研究の資料群として

利用されてきました。また、平成 16 年には重要文化財指定に先んじて大津市指定文化財にも指定され、当館でもたびたび展覧会でその一部を展示してきました。「大津百艘船関係資料」は、大津の歴史を語るうえで欠かせない基礎資料といえます。

こうした数ある資料群の中でも、特に特権を保証した為政者（歴代大津城主・大津代官）からの高札が有名で、当館常設展示にも展示していますが（写真 1）、さらに大津百艘船仲間を運営する代々の年寄らによって書き継がれてきた「大津百艘船万留帳」が注目されます（写真 2）。これらの記録は、幕府などからの法令や触書、大津浦と他浦との争論、運賃や船数に関する記述などその内容は多岐にわたり、現在、延宝 9 年（1681）～嘉永 6 年（1853）間のうち 64 冊分（主には寛政 8 年〔1796〕以降）が残されています。この膨大な記録を読み解けば、百艘船仲間の組織や活動や年中行事、仲間内の文書類の管理システムなど、まだまだ知られざる琵琶湖水運の歴史が明らかになるでしょう。なお、これら「万留帳」の一部は、古文書解読の有志団体「大津古文書輪読会」の皆さんによる解読が進められています。こういった内容が記録されてきたのか、非常に気になるところです。また、次年度には、今回の新指定を記念した「江戸時代の琵琶湖水運」と題した展覧会も開催予定です。今後も整理・調査を進め、資料群の全貌を順次紹介したいと思います。

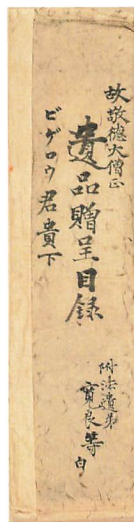
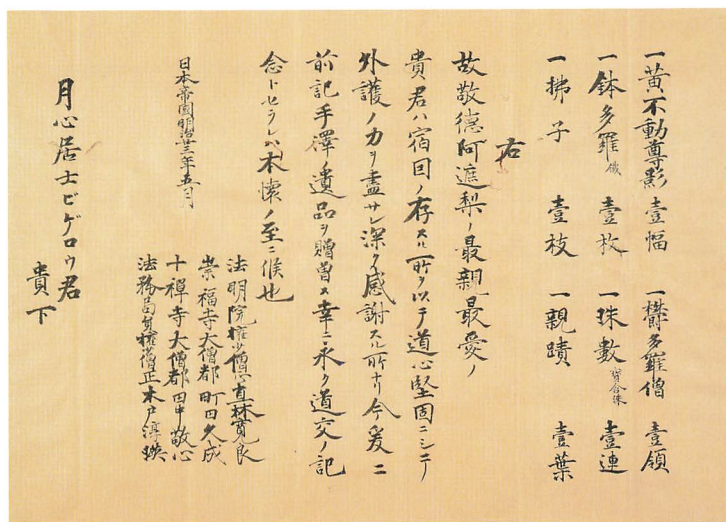
（学芸員 高橋大樹）



写真 1 京極高次大津百艘船高札 文禄 4 年（1595） 個人蔵



写真 2 大津百艘船万留帳 江戸時代 個人蔵



遺品贈呈目録 1 通

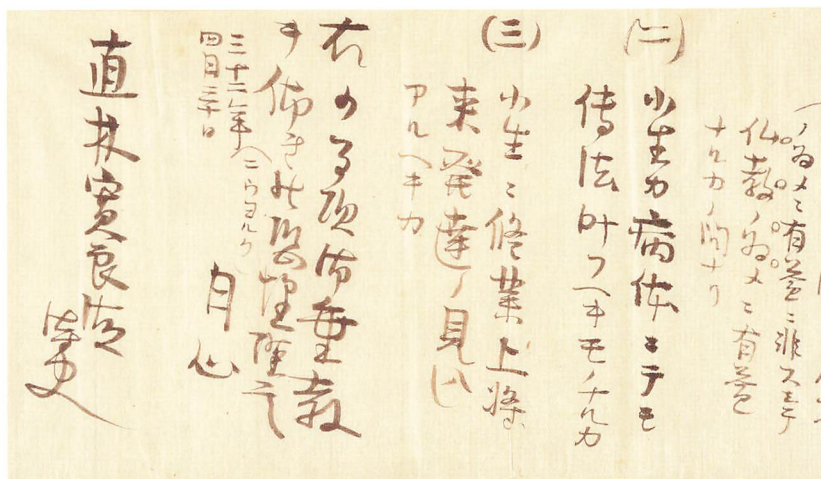
明治 23 年（1890）園城寺（法明院）蔵

法明院第 9 世の桜井敬徳の遺品を、彼と親交のあったビゲローに贈与した際の目録です。法明院第 10 世の融照敬円（直林寛良）や、東京国立博物館初代館長で、園城寺光浄院の住職であった町田久成などが名を連ねています。

ビゲロー書状（岡倉覚三訳） 1 通

明治 32 年（1899）園城寺（法明院）蔵

フェノロサやビゲローなどが送ってくる手紙は、やはり英語なので、当時日本でも読める人は限られていました。そこで両者と知己であり、英語が堪能だった岡倉覚三（天心）らが翻訳していました。

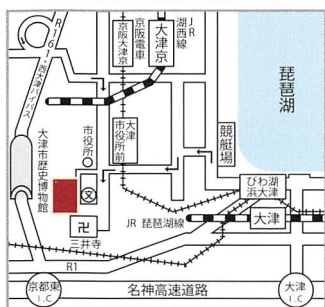


フェノロサ・ビゲロー関係史料 一括

明治 園城寺（法明院）蔵

法明院で、フェノロサやビゲローが実際に使っていた机や椅子、望遠鏡、地球儀、ランプ、蓄音機です。これらは、フェノロサやビゲローが法明院に贈ったもので、当時のやり取りが手紙などに見ることができます。

ご利用案内



■交通機関

- ・阪電鉄石山坂本線「大津市役所前（別所）」駅下車 徒歩約5分
- ・JR 湖西線「大津京」駅下車 徒歩約15分

■駐車場 約 70 台（無料）

■常設展示観覧料

区 分	個人	団体 (15 名以上)
一 般	320 円	250 円
高校生・大学生	240 円	190 円
小学生・中学生	160 円	120 円

- ◆大津市内在住の 65 歳以上の方は一般料金の半額。
- ◆市内在住の障がい者の方、市内在住の介護保険の要介護者の方・要支援者の方は無料（証明するものをご提示ください）。
- ◆ミニ企画展は、常設展示観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

■開館時間

午前 9 時～午後 5 時（展示室への入場は午後 4 時 30 分まで）

■休館日

月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館）
祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）
年末年始（12 月 27 日～1 月 5 日）館内点検（6 月中旬）
その他、業務の都合により休館する場合があります。

—— 歴博カードのご案内 ——

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。（1 年有効）

料金	一般	高大学	小中学
	2,000 円	1,500 円	1,000 円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町 2 番 2 号
TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

大津歴博だより No.113 平成31年1月20日